

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	岐阜市2170103705		
法人名	有限会社 ウィンドワード		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	岐阜市梅林南町12番地 メゾンK1階		
自己評価作成日	平成26年9月23日	評価結果市町村受理日	平成26年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103705-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の場所が梅林公園の前で、利用者の方が散歩に行くのにも、疲れない距離です。四季の移り変わりも肌を感じる事が出来、周囲の環境がとても良い 又 職員も定着しており、落ち着いている。職員の資格取得者も少しずつではあるが増え、どのような状況、状態の利用者の方が入所されても対応出来る力を持っていると思っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、開設から9年を超え、この間、21人の看取りを行っている。管理者と職員は、看取り支援のかけがえのない体験を通し、介護技術とサービスの質の向上につなげている。職員の定着もよく、利用者とは、暖かい心と笑顔で接し、気持ちが通い合う関係を築いている。また、個別に応じた自立支援では、車椅子から椅子に移って食事する人を支えたり、福祉用具を有効に使用して、機能を補い、その人らしく暮らせるように支援をしている。協力医とは、24時間の連絡体制を取り、最期まで安心して生活のできる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「老いを笑うないずれ私も通る道」の気持ちを忘れないよう、玄関に掲げてある。管理者、職員の日常の会話にもでるぐらい、理念を実践出来ていると感じることが出来ている。	理念は玄関に掲げ、毎月の会議で、その意義を確認している。地域住民と日々交流しながら、一つの家族のように、互いに助け合い、自分らしい暮らしができるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、地域と繋がりを持つ為、自治会に入会し、自治会の行事に、利用者の方の状況に合わせながら、利用者の方が無理な場合は職員だけでも、可能な限り参加できるように心掛けている	自治会の一員として、回覧板などで情報を得て、自治会行事や提灯祭り、敬老会等に参加をしている。公民館での映画会や幼稚園児・小学生との交流を検討している。	さらに、地域とのつながりが広がるように、社会資源の活用と、関係者への働きかけに期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一人暮らしの人や、昼間一人で過ごしている人に、施設へ遊びに来て頂けるよう町内の民生委員の方にも声掛けの協力をお願いしている。事業所としても、いつでも受け入れられるようにしているが、なかなか、実行できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の方の個々の状況、ケア方法を説明させて頂き、困っていることなど相談させて頂き、意見 アドバイスを頂きながら、サービスの向上に活かしている。	会議は、隔月に開催し、利用状況や空室などを報告している。出席者からの意見や提案、助言等を受け、それらを、サービスの向上に反映させている。	運営推進会議には、家族を含め、幅広い層の人に参加が得られるように期待をしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席時に相談させて頂いたり、状況によっては、電話などで、相談している。	市の担当者には、空室情報や法改正について相談をしている。また、担当者も、定期的に訪れている。市主催の研修会や補助金申請についての案内をもらい、困難事例等は、随時相談し、良好な関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者 全職員が理解している。夜間は防犯の事もある為施錠している、昼夜問わず、玄関には人の出入りが分かるようセンサーをつけ、昼間の施錠は行っていない。家族の方などインターホンを押さなくても、自分の家のように出入りできる。	身体拘束の弊害を全職員が認識し、拘束をしないケアを実践している。やむを得ない場合は、家族と同意書を交わしている。玄関から出てゆく人は、職員がさりげなく付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者 全職員が常に心掛けている。言葉使い、対応の仕方、身体に触れる時など、特に注意するよう心掛けている。		

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者と一部の職員は理解している。成年後見人は今までも、利用していた方もみえ、今後も必要であれば、相談にのれる準備はある。職員に対しても学べる機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書にて説明を行ない、質問を受け、理解を得ている。又改正の際は、電話でお話させて頂き、文書を郵送、来訪の際に再度説明を行ない理解・納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が施設へ来訪の際、要望・意見などを聞くようにしている。口頭で言いづらい方は、玄関に苦情、意見、相談箱を設置、重要事項説明書の中に外部の相談窓口の連絡先を記入し、表せる機会を設けている。	家族の訪問時に意見を聞いている。穏やかな表情になったとの感謝の声もある。また、リハビリや歩行を増やして欲しいとの希望があり、それらを、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度、管理者 ケアマネ 全職員で会議を行い、利用者の方 個々のサービスのあり方について議論すると共に、職員の個々の気持ちも聞くようにしている。話し辛い場合は、個別に聞く機会を設け、反映に繋がるよう、努力している。	管理者は、毎月の会議で、意見や提案を聞いて、活発に話し合っている。トイレや入浴誘導の工夫、居室の模様替え、勤務体制などを検討し、サービスの改善と運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者 管理者は同一人物であり、日々一緒に仕事をしている為把握している。全職員が働き易い職場であるよう常に考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修希望の職員には、それに必要とする費用を事業所が負担している。又個々の状態に応じ、レベルアップできるよう、進める事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に交流はないが、今後他のグループホームの方と交流が持てるよう、努力していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、趣味 嗜好シートフェイスシートの記入をお願いすると共に、本人さんとの面接を行い、意思疎通可能であれば、要望を聞きながら良い関係作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り、家族状況を把握すると共に不安困っていること要望に耳を傾け、家族の方と一緒に利用者の方を支えて行ける良い関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の方の話しを元に、管理者 全職員 ケアマネジャーと、話し合い、あらゆる方向性を考え、家族の方に再度話しをさせて頂きながら、より良い選択が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第二の我が家と職員が思ってくれるよう、出勤時は「ただいま」帰宅時は「いってきます」の言葉を使っている。その言葉も定着し、今では、利用者の方々も「いってらっしゃい」「おかえり」と声を掛けてくださる良い関係作りが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の面会時、本人さんの状態説明を行ない、それを元に、要望 考え 不安に思っていることに耳を傾け、色々な選択肢の中から、より良い方向性を共に考えながら行っている。遠方の家族の方には、電話や手紙を使用し相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々に差は有るが、友人と外出される方も見える。ホームとしては、馴染みの方の受け入れはいつでも可能である。	家族や知人が訪れ、外食や買い物、子どもの家に立ち寄るなど、馴染みの場所へ出かけている。美容院や墓参りなどへは、家族の協力を得て出かけている。訪問客とは、居室やリビングでゆっくりくつろげるよう、お茶を提供して 関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の助け合いは、常日頃見られる、足の不自由な方の食後の食器を、出来る利用者の方が進んで洗い場まで運んで下さるなど、支えあう姿が見られると共に、日によっては、仕事の取り合いでもめる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで、看取りの方ばかりだった為、家族の方の心のケアを大切にしてきた。退所される利用者の方が今後みえたら、関係を断ち切るのではなく相談に応じれるよう努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の可能な人であれば、日常生活の中で本人とコミュニケーションを取りながら、本人の希望に添った暮らしが出来るよう努め、困難な人の場合は、表情、仕草等を見ながら希望、意向に努める。場合によっては、家族の方と話し合う。	日々、利用者の興味のあるような話題で話しかけている。着替えの際には一緒に服選びをしたり、居室の掃除は、できる人には自分でやってもらい、実現可能なことを支援しながら、その人らしい暮らしになるように様々な思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族、ケアマネージャーの方に、生活歴、趣味、特技等を聞き、これまでの生活とあまり変化の無い暮らしが出来るよう、現状把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の状態を記録に残し、日々の状態の移り変わりを見ている。それぞれの生活の中で出来ることをお願いするなどし、その日の状態に合った過ごし方をしてもらい、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一度の会議で管理者、ケアマネージャー、職員全員が集まり話し合いを行い、ケア計画に生かしている。御家族の参加は難しいが、個々に連絡を取り、意見を聞き相談させて頂きながらケア計画に生かしている。	毎月の全体会議で、利用者の状態や家族の意見を確認し、介護計画に反映させている。一人ひとりの支援経過をふり返り、身心の変化が顕著な場合は、主治医の意見を踏まえて、柔軟な見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人ごとに、日々の生活を出来る限り、細かく記録に残し、職員全員が把握し順次対応出来るようにしている。記録を元に、話し合いを行い、実践に活かすと共に計画の見直しにも活かしている。記録については、家族の方に限り見る事可能		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に、利用者の方の状況によっては、居室の移動があるかもしれない事を伝え、利用者の方の状況に応じ、職員が一番目が届く場所へ居室を変え、常に状態把握し柔軟な対応が出来るよう心掛けている		

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方や民生委員の方達とは交流はあるが、他の地域資源の活用は出来ていない。地域のイベントなどは出来る限り参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば可能。但し家族の方が付き添いにて受診。施設としては、契約医院があり、昼夜問わず安心して医療を受けることが出来る。状態によっては、整形外科、歯科も往診してもらうことが出来る。	ほぼ全員が、24時間対応の協力医をかかりつけ医としている。協力医に加え、整形医、歯科との往診体制と、看護師の訪問もあり、手厚い医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護の方が来てくださり。職員の気づき、利用者一人ひとりの状態を伝え相談し、アドバイスを受けている。利用者の方の状態によっては、常に連絡をとり指示を頂きながら利用者の方が適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、入院先に利用者の方の今までの状況、状態の説明を行なうと共に入院中は、面会、病院での経過を聞き、退院時受け入れが可能なのか相談させて頂き。可能な場合、退院後も病院との関係を築きながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、説明を行ない、本人、家族の方の考えを聞くと共に、重度化、終末期を向かえた場合には、本人、家族、主治医、職員と話し合い、より良い支援が出来るよう努めている。	契約時に、重度化と終末期方針を、本人・家族に説明している。重篤な医療依存がなければ、協力医の往診で対応をしている。段階的に、主治医と家族、関係者で話し合い、終末期の支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月一度の職員全員参加の会議時、急変、事故発生時の手当て、対応について指導し連絡体制も整えている。今後も、実践に生かされるよう訓練を重ねたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の際に、避難経路の確認誘導方法、消火器の取り扱い方、火災通報装置の取り扱い方の説明を行うと共に、防災訓練の際に、夜間を想定し訓練、重度化している方の避難誘導の訓練をおこなっている。近所の方の参加は難しいが、何かの時には、助けて頂けるようお願いしている	年2回の災害訓練のうち、1回は消防署の立ち合いで行っている。夜間想定・避難誘導・初期消火などを実施し、とくに重度者の避難を重視して訓練している。スプリンクラーを設置し、火災報知器の扱い等の自主訓練も行なっている。備蓄も確保している。	災害時の避難場所や避難経路、連絡網など関係者で周知することが望ましい。また、広域的な災害を想定し、対応手順や役割分担などのマニュアル化に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格などを把握し、その方に合った対応を心掛けている。トイレ誘導やオムツ交換の際、周りに分からない様配慮し、誘導を行う。(本人がみんなの前で訴えた場合は別) 名前の呼び方なども、本人さんの希望に合わせ呼べるよう、事前に聞くなどし考慮している。	個々の性格や生活歴を尊重した言葉かけや、会話に心がけている。話しかける時は、横に座り、目線を合わせるなど、常に高齢者を敬い、誇りを損ねないように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洗濯たたみ、居室の掃除、茶碗拭き、テーブル拭き、新聞折や、袋たたみ、本を見る方、雑誌を見る方、テレビを見る方、何をして頂く時でも、無理強いするのではなく、自分で選択して頂く様にし、自分らしく生活できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴に時間は決まっているが、例えば、お風呂に入りたくないと言われる方など、時間をおき、もう一度聞き、それでも嫌がられる方は、次の日にするなど、出来る限り利用者の方の希望に添った生活出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は歩行可能な方は、自分で選び、歩行困難な方は、何着か用意し選んで頂く。歩行可能な方の中には、朝、夕と服が違う事もある。髪型も本人さんの希望に合わせ散髪、家族の方と美容院に行かれる方も見え、その人らしい支援を心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在食事作りをしている方はいないが、座って野菜の皮むくなど、毎日ではないが可能な限り行っている。後片付けは、身体的に無理な人、やりたくない人様々だが、何人かの方は、自分の食器、他の方の食器を洗い場に運んで下さる。布巾を持って行くと机を拭いて下さるなど自然な姿が見られる	食事は、庭で育てた野菜や、家族の差し入れなども利用した職員の手づくりである。利用者も、皮むきや食器拭きなどを手伝っている。職員も同じテーブルで食べ、楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録、利用者の方の体調に応じては、水分量のチェックも行なう。食事は、常食、刻み食、ミキサー食、水分にトロミ使用など、利用者の状態に応じて摂取できるよう配慮している。毎日10時15時に水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝、夕、自分の歯、義歯、歯が無い方、利用者の状態に応じて、職員見守り、介助の元、口腔ケアチェックを行なっている。状態によっては、毎食後口腔ケアを行う方もみえ、歯科の往診を受けてる方もみえる。		

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、身体の状態を把握し、その方に合った、支援を行っている。排泄の感覚が長い人、失禁の多い人は声掛けし、排泄を促し、夜間など尿意の近い人、身体の状態により、ポータブルを使用するなど、自立を促す支援を行っている。	排泄回数の多い人は、こまめに誘導したり、早めの声かけを行なっている。その結果、失敗が減り、トイレでの排泄ができる人が増えている。夜間は、希望者に、ポータブルトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、散歩は勿論、体操等の運動を行いながら、利用者の方の身体の状態に応じ、予防に取り組んでいる。それでも、困難な場合は、主治医に相談を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽に入れない利用者には、シャワー浴で対応、それでも困難な場合は、清拭、部分浴などの対応をしている。入浴拒否される方も多々みえるが、時間をおき、もう一度声掛けを行う、又日を改めるなど出来る限り利用者の希望に添えるようにしている。	入浴の時間帯は、個々の希望に応じている。その日の状態で入浴が困難な場合は、シャワー浴か清拭で対応をしている。拒否の人には、無理をせず、日を改めるなど、本人の思いに添って楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調が悪そうな時は居室のベッドで休んで頂くなどの対応をしている。居室の温度、湿度調整を行い、気持ちよく睡眠をして頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や、薬剤師の説明を聞き、職員全員で共有した上で、服薬の見守り、介助などを行っている。症状に変化が見られた時は、すぐに医師に相談を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、洗濯たたみ、食器拭きなど、出来る範囲で行って頂いている。編み物、ゲーム、手、足の運動、本を好きな方は本を買って見られる方など、一人ひとりに合った気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は希望に添った外出の支援は難しいが、公園の散歩、外で流しそうめん、バーベキュー、地域のお祭りへの参加などの支援を行っている。御家族の休日には、迎えに来てくださり一緒に外出される事もある。	事業所前の公園を、日常的に散歩をしている。戸外での月見や流しそうめん、バーベキューなどをしたり、季節の花見や祭り、敬老会などへも出かけている。美容院や墓参りなどは 家族の協力を得て出かけている。	

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の状況では、一人も所持されていない。しまった場所が分からなくなってしまったり、家族の方の希望もあり所持されていないが、外出時や、子供さんの誕生日などで、お金が必要な時など、利用者の方と相談しながら使用できるよう配慮している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援する用意はあるが、身体的に無理な方や、頻りに面会に来た下さる方もみえ、今現在は、行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所に応じて季節の花や飾りを飾ったり、庭には野菜や花を植えたりし季節を感じ取れるよう配慮している。又居心地良く過ごして頂く為に、室内の温度、湿度、光、臭気、清潔等に気を付けている。	玄関や居間には、季節の花や記念の写真を飾っている。トイレはバリアフリーリフォームがされ、利用者が安全に移動ができるようになっている。庭では、野菜や花を育てて季節感を採り入れ、空調は、適切に管理をし、居心地よく過ごせるように配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方がほとんどだが、居間にもソファ、テレビを置き、利用者の方が自由に過ごせるように配慮している。毎朝の新聞や雑誌も自由に見られるよう置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の方と相談のうえ、出来る限り新しい物ではなく、これまで馴染まれた親しんだ物を持参して頂き、少しでも、今までの生活と大きな変化が無いよう配慮している。	居室には、使い慣れた家具や衣類などを持参している。家具類やベッドの位置は、本人の使いやすいように配置している。掃除は、自分で掃除機をかけてもらうなどして、自宅にいた時と変わらないよう配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂場や、トイレには、分かり易いように目印を付け、施設の廊下は、リビング、キッチンと一直線になっている為、利用者の方は、職員の存在が分かり易く、職員も利用者の方の行動が見ることが出来、安全、安心である。		